

平成28年7月11日

No 145

< 人材育成 >

中小企業にとって採用の厳しい状況が続いています。全体の景気は良いと感じませんが、人材は厳しいです。中小企業にとって、入社した者をいかに育てるか、一番大切なことだと感じます。そして中小企業は、密着経営ですので、入社した者が、永く勤務してくれるかだと思います。松下幸之助が「人材育成と言う問題は、まず人を好きにならないとあかんぞ、そしてまた事業と言うものは、人が事業も行うんだから、その人同士が全部本当に好きにならないと仕事は好きにならん、仕事は好きになったら成功するんやぞ、仕事は何んかがチームワークを組んで仕事するんや、その中で一人でも嫌いな人がおったら、仕事をけへんで」「好きになるには相手の良いところを見ればいいんや」「良い所を見つけようとしていかなのや」「好きになる為には、その相手の良い所を探せ、探してもなかつたら、作ったらええやないか」良い所を見つけ好きになる。良い所をみるとは、社員に対する思いやり、最大限の関心を持つ、幸せになる所を探願していることだと思います。それも一人ひとりのことを常に考えている。小規模の会社は、全員が同じ方向、全員が精鋭でなければ高収益体質になりません。精鋭部隊をつくらせていく。常に考え、学んでいくことかと思っています。

採用した者をいかに育てていくか。人材も人財としていく。企業の本命であります。社員への雇用が企業の社会貢献であり、社会への還元であると思います。そして中小企業こそが、大企業に比べ、社員一人ひとりの光を当て、活動する場、やりがいのある場を身えることができると思います。社員も中小企業だから、自分の可能性を伸ばしてくれる。自分が、行動することで、自分が変わり、職場が変わり、会社も良くなることを自覚する必要があると思います。中小企業だから出戻りこそ一杯あります。中小企業だからこそ、色々なことに取り組んでいきましょ。

高林幸裕